



ドイツとの比較で考える

名 宰相との呼び名が高かったアンゲラ・メルケルが引退した。メルケルは16年の長きにわたってドイツ政界のリーダーであっただけでなく原発政策や難民受け入れ等でヨーロッパ全体の政治に大きな影響を与えた。引退前に連邦議会の選挙があったが(2021/09/26)選挙で勝利したのはメルケルの率いていた保守系のキリスト教民主同盟/キリスト教社会同盟(CDU/CSU)ではなく、もう1つの大政党、社会民主党(SPD)であった。社会民主党も戦後、ヴィリー・ブラント首相など国際的に著名な指導者を輩出してきた。

ドイツの連邦議会の選挙制度は小選挙区比例代表併用制といわれ日本の衆議院の小選挙区比例代表並立制と紛らわしいが、議席の配分は原則として比例代表部分で決定されるので議席数は得票率とほぼ比例する。純粋な比例代表制に近い制度なので小政党もそれなりの議席を獲得して少数派の声を議会に反映させることができ、連立政権が形成されるときには代表閣僚に送り込むこともできる。世論の多様化とともに大政党といえども単独で5割を超えるような議席を得ることは困難となり、複数の政党の連立がドイツ政治の常道となっている。今回の選挙は第1位の社会民主党が25.7%(206議席)、第2位のキリスト教民主同盟/キリスト教社会同盟が24.1%(196議席)、第3位の同盟90/緑の党が14.8%(118議席)、第4位の自由民主党11.5%(92議席)、第5位の極右政党ドイツのための選択が10.3%(83議席)、第6位の左翼党4.9%(39議席)と続いた。比例代表制をベースに議席の配分が行われるとはいえドイツでは5%条項があって得票率5%に満たない政党は切り捨てられることが知られているが、今回の左翼党は3つ以上の小選挙区で勝利すると救済されるという例外規定によって議席を得ることができた。それはともかく連立政権を作るのは政党間の協議に委ねられているので2、3位連合で政権を担うこともあり得る。メルケル政権の第4次内閣は1、2位連合のいわゆる大連立であった。今回は協議の結果、社会民主党、自由民主党、緑の党の3党が連立に合意して12月8日にシュルツ政権が誕生した。赤、黄、緑の政党カラーから「信号機」政権ともいわれているが、政党間に

大きな対立・矛盾は抱えておらず、スムーズな政権スタートであった。日本ならば、メルケルの率いる政権が打倒されたこと自体が大々的に報じられたかもしれない。議会制民主主義においては適当な時期において政権が交代するのは常道である。小選挙区制や大統領制においては政権交代が起きると革命が起きたかのように錯覚する人もいる。メルケルに大きな失政があったわけではないが、多くの政党が競い合う比例代表制の議会制民主主義において政党の力関係が変わり、それに伴って静かな政権交代が行われた例をドイツに見ることができよう。

日本では第2次安倍政権以後「絶対的権力は絶対に腐敗する」という真理をいやというほど見せつけられた。森友・加計・桜を見る会問題、学術会議の任命拒否。それでも政権交代に向かって政治が動かない。歯がゆい思いをした人も多からう。

投票率はドイツの76.6%に対して日本は55.9%と著しい開きがある。日本が下がってきたのは中選挙区制から小選挙区制への制度変更で有権者の選択の幅がせばまってきたこともありはしないか。二者択一を強いられる日本よりもドイツのほうが世論の多様性を議会に反映させやすいのではなからうか。現在の日本の行き詰まりを打開する道はここにあるかもしれない。

(関西学院大学名誉教授 永田秀樹)

次号予告

「法と民主主義」2022年4月号 (No.567)

【特集】

維新の問題点と危険性(仮題)

維新がなぜ大阪ではここまでの支持を得ているのか。大阪府・大阪市での、カジノ、コロナ対策、教育、福祉など政治の実態はどういうものなのか。維新の国政における役割とはなにか等、編集委員会では、維新をめぐるこうした問題に多面的に光を当て、全国で共有することが、とりわけ夏に参院選を控えるいま、極めて重要なことではないかと考えました。3月下旬の発刊です。

針生誠吉基金

本誌は、故針生誠吉先生からの多額のご寄付によって、発行を支援していただいております。